

授業概要

特別活動の目標は、学習指導要領第5章の第1で示されているが、本授業では、特別活動(学級活動、生徒会活動、学校行事)の在り方について、学習指導要領を中心として学び、その意義を考える。後半には、学級活動や行事等を中心とした集団活動の企画、活動案の作成や集団を育てていく学習を体験的に学ばせる。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	特別活動の目標
第 3 回	特別活動の基本的な性格と教育的意義
第 4 回	特別活動と道徳及び生徒指導
第 5 回	学級活動
第 6 回	生徒会活動
第 7 回	学校行事
第 8 回	指導計画の作成と評価
第 9 回	学級活動実践に向けて
第 10 回	学級活動実践に学ぶ
第 11 回	生徒会活動実践に向けて
第 12 回	生徒会活動実践に学ぶ
第 13 回	学校行事実践に向けて
第 14 回	学校行事実践に学ぶ
第 15 回	実習のふり返りとまとめ
第 16 回	最終課題 (レポート)

到達目標

本授業の到達目標は、次の3点である。

1. 特別活動の教育的意義や学校現場における実践例から特別活動の在り方を学ぶ。
2. 個と集団の関わりという視点から、望ましい集団づくりについて考える。
3. 協働により集団を運営していくための方策を学び、実際にその力を養う。

履修上の注意

授業は、講義形式を基本とするが、講義時、受講者に意見や発表を求めることが多い。また、学級活動や行事等を中心とした集団活動の企画、活動案の作成や集団を育てていく学習も体験的に学ばせていく。

毎回、プリントや資料を用意するが、使用するテキスト『学習指導要領』を事前に熟読しておくことが望ましい。出席については、毎回の授業の最初に呼名する。この時点で間に合わなければ遅刻扱いとする。

予習復習

予習として、各回の講義の終末に、次回のテーマに関し問うことがある。それまでの講義をふまえながら、自分なりの回答を用意し次回に臨むこと。復習は、理解が難しい部分について、当該回以外にも質問の時間を設けるので、まとめておくことが望ましい。

評価方法

講義における参加貢献度及び授業態度 30%、授業内に課す課題及び指導案発表 40%、および最終課題(レポート) 30%の結果を総合的に判断する。

テキスト

- ・教科書名：『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編 平成 29 年 7 月』
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：東山書房